

第1回 多摩平の森地区 A 街区 公共公益施設等整備計画検討委員会 要 点 録

日 時：平成 23 年 10 月 14 日（金） 午後 7 時 30 分～9 時 00 分

場 所：日野市役所 6 階 全員協議会室

内 容：（１）委嘱状の交付
（２）市長挨拶
（３）委員自己紹介
（４）会長、副会長の選出
（５）会議の目的及び経緯について
（６）意見交換
（７）その他

出席者：27名

- （１）市長
- （２）市民委員 12名
- （３）行政委員 6名
- （４）事務局 5名（企画調整課3名、都市計画課2名）
- （５）その他 3名（UR 随行2名、企画調整課1名）

【午後 7 時 30 分】開会

事務局：第1回多摩平の森地区 A 街区 公共公益施設等整備計画検討委員会を開催する。
配布資料を確認する。

以下の事前に確認することを説明する。

- ・議事録作成のため録音すること
- ・議事録をホームページで公開すること
- ・委員の氏名のみ公表。個々の発言については特定の氏名は公表しないこと
- ・会議を公開すること（次回から開催日をホームページに公開）
- ・情報公開その他については情報公開条例に基づくものとする

市 長：委嘱状の交付を行う。

市 長：開会の挨拶をする。（資料1）

各委員：自己紹介を行う。（資料2）

事務局：多摩平の森地区 A 街区公共公益施設等整備計画検討委員会の会長に多摩平の森重点地区
まちづくり協議会会長の大木委員を推薦する。（資料3）

異議の有無を確認する。

異議なしの発言により大木委員に会長をお願いする。

会 長：就任の挨拶をする。

多摩平の森地区 A 街区公共公益施設等整備計画検討委員会設置要綱第 5 条にもとづき、
多摩平の森地区 A 街区公共公益施設等整備計画検討委員会の副会長に多摩平の森重点地区
まちづくり協議会副会長の笹原委員を指名する。

異議の有無を確認する。

異議なしの発言により笹原委員に副会長をお願いする。

会 長：経緯についての説明を事務局に指示する。

事務局：経緯について説明（資料 4）

- ・ 計画地周辺の状況（高齢化率・人口構成・小学校・保育園の状況など）
- ・ UR と市のまちづくり協定について
- ・ 多摩平の森重点地区まちづくり計画について
- ・ A ブロック公共施設の整備イメージ（案）について
- ・ A ブロックの用途制限について
- ・ UR 譲渡地における開発事業進捗状況
- ・ UR ルネッサンス 2 事業概要

会 長：質問を受け付ける。

委 員：市立病院の機能向上構想を中心となって策定した市立病院経営専門官を当委員会に参加
してもらった方が良いのではないかと？

委 員：日野市薬剤師会も当委員会に参加してもらった方が良いのではないかと？

会 長：本日、市長から委員については委嘱を受けているので、両名については委員ではなく会議への
オブザーバー参加ということではどうか？

事務局：多摩平の森地区 A 街区公共公益施設等整備計画検討委員会設置要綱第 7 条により、両名の会議
へのオブザーバーとしての参加が可能な旨を説明。

会 長：異議の有無を確認する。

異議なしの発言により市立病院経営専門官と日野市薬剤師会にはオブザーバー参加ということ
とする。（議決権はない旨を確認）

委 員：平成 24 年 3 月までに構想案を策定する理由は何か。

市 長：理由は以下の通り。

- ・URが早期の土地利用を望んでいること
- ・市立病院の人事の形を作る時期
- ・市長としての任期が平成25年4月までなので、24年3月までの決断であれば責任をもって判断することが可能と考えていること
- ・社教センターと一緒にやれるかのリミットと考えていること

会 長：会議が3回では少ない。事務局がしっかりしなければいけない。

事務局：A街区の整備が実現するように粉骨砕身するのでよろしくお願いします。

会 長：待機児童数は現在何人いるのか。

委 員：平成23年4月現在122人。高幡不動駅や豊田駅周辺でそれぞれ30数人と想定される。

会 長：当該地域で人口が増える可能性はどうか。それは若い世代か。

事務局：最大6000人程度増える可能性がある。若い世代だと考えられる。

会 長：そうなると待機児童が増える可能性がある。

また、5小と6小が満杯の状態なのでA街区に未利用地を確保しているということを前提に皆様には検討をお願いしたい。

委 員：現在、国では2次医療圏の立て直しのための補助に力を入れているので活用できないか。

※1次医療圏（開業医）

2次医療圏（市立病院レベル）…17万人くらいの日野市の規模

3次医療圏（即入院レベル。多摩総合医療センター、杏林大学病院など）

会 長：今までの経緯等に対する質問は出尽くしたようなので、A街区について事務局より説明をしてほしい。

事務局：設置要綱、イメージ案を説明。

会 長：URは民間主導という考え方で協力体制を組んでくれる。

URとしてどんなものなら公募の対象となるのか教えてほしい。

委員：URは過去において特別養護老人ホームや高齢者専用賃貸住宅、保育園などを誘致した実績があり、広く公募して土地をお貸しするという手法で実施している。
実現可能性がゼロということではないが、前例のないものもある。
マンションは難しくないが、看護・介護学校は経験がない。
病院も誘致したことはある。

会長：今回の事務局提案ではイメージがわからない。
URと接点を見つけられるイメージを作り上げるのが非常に難しい委員会である。

委員：介護学校は定員割れとなっている。学校を増やしても仕方ない
市内だけで緊急性のある高齢者が200名くらいいるので老人ホームについては
需要が見込まれる。

委員：人口が6000人増えるのであればクリニックモールの需要はあると思われる。
学校は大学付属のもの以外は手を引いている状況。(立川市も手を引いた)
学校はこのイメージ図から消えていくイメージがある。

委員：学校関係は厳しい状況。
例えば、A街区に高齢者の職場を設けて、その運営を社教センターがやるというのは
どうか。

委員：医療費の改定の時期を迎える。24時間対応の訪問医療・訪問看護・訪問介護などを
一体でやる「新しい事業」には厚生労働省が点数をつけるという話をしている。

会長：訪問看護ステーションをもっと大きく書いておくほうがよい。
健康維持のための施設が必要と考える。

委員：日野市には全国的にもめずらしい民間マンションの下駄履きで経営できている保育園がある。
日野市では民間も公立も「このレベルまでやる」という取り組みをしているので、高い安いで
他から事業者が入ってくるのは疑問である。

委員：具体的な規模のイメージがわからない。

委員：市として考えられるものとして、市立病院機能向上構想と職員プロジェクトチーム案を融合
したもののなので、詳細な規模まではつめたものではない。
これから待機児や高齢者待機者の問題に多大のお金がかかるので、行政としては財源の問題も
含めて考える。

会 長：実際のものとして考えられる絵柄を描いてほしい。

財源がないからと言って事務局で勝手に切らないでほしい。

副会長：実際に開発・運営をする民間事業者からの声を聴く場を試しにやってみたらどうか。

切り売りをせず、一括して開発する事業者1社にお願いする方がよい。

会 長：事業者からの意見聴取は絵柄が固まってきたら可能性を探っていきたい。

委 員：学童保育について、今後の在り方は検討しなければいけないが、6小学区は過密地域なので当委員会で検討してもらいたい。(保育園だけではすまない)

会 長：学童クラブについても案の中に入れてほしい。

委 員：市立病院としては畳の上で最期を迎えられよう、在宅を支援できるような体制があるとよい。

会 長：学校のところに置いたらどうか。案に入れておいてほしい。

委 員：2次医療の亜急性期の受け皿がない。

8割が病院で最期を迎える現状は異常であり、5割程度が在宅で最期を迎えられるようになるとよい。慢性期の人が行き場所もなくて困っている人が多い。

会 長：社会教育センターの問題については別途事務局に確認する。

事務局：本日いただいた意見を参考にイメージ案を作りなおす。

会 長：URは事務局を助けてやってほしい。事務局は英知を集めて計画を作ること。

次回日程は11月24日(木)午後7時30分~とする。以上、本日の会議を閉会する。

【午後9時00分】閉会

この議事録の内容に間違いがないことを認める。

会 長 大 木 茂

副 会 長 笹 原 武 志